


第2回報告

<p>テーマ</p>	<p>「コーヒーカップの向こう側」 ～貿易が貧困をつくる～</p>	
<p>日時</p>	<p>平成27年8月29日(土曜日) 午前2時から午後4時まで</p>	
<p>場所</p>	<p>尼崎市立地域総合センター神崎</p>	
<p>講師</p>	<p>(特活)開発教育協会理事 大阪委員会 佐藤 友紀さん</p>	
<p>参加者</p>	<p>14名(内訳 登録者6人、市民他8人)</p>	
<p>事業の目的</p>	<p>日常飲んでいるコーヒーがどうやって生産され、どうやって私たちの手元に届くのか、不公平な貿易について考え、国際的な貧困問題を通じて、人権意識を高めることを目的に実施しました。</p>	
<p>実施内容</p>	<p>【ワークショップの内容】</p> <p>初めに参加者を3グループに分け、グループ内の自己紹介からはじまり、まず導入として、講師から、日本でも飲食される植物の実をクイズ形式でグループ討議をしました。次に本題であるコーヒーの主要産地についての説明があり、コーヒーが主に熱帯の開発途上国で作られ、現在生産量の1位がブラジル、2位がベトナム、3位コロンビア(以下省略)であることが話されました。続いて、植え付けから輸出されるまでの写真を順番に並べていき、生産から輸出までの流れを学習した後、参加者が実際の農家であると想定し、企業から提示された契約条件のもとに、新規にコーヒー栽培をし、1年ずつ4年間の収入をみるシュミレーションを行いました。その結果、コーヒーはその年の気象状況や主要生産国の出来不出来によって値段が変わり、収入に影響があること、また、最低保障がないため、その影響を受け、貧困の状況は変わらないことがわかりました。コーヒーが先進国等の人の口に入るまでには、間に様々な仲介業者等があることから、価格が高くなるが、実際に生産している農家はわずかな収入であるとの説明がありました。</p> <p>最後に、このような開発途上国の立場の弱い人々の自立と生活環境の改善を目指し</p>	

	<p>たフェアトレード組織(WFTO)が1989年に結成され、直接買い付けや農家に対して最低保障をするなどの取り組みが紹介されました。その商品にはフェアトレードラベルが貼られ、日本でも販売されていることも紹介されました。</p>
<p>参加者からの感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明がていねいでわかりやすく、専門的な知識が高くよかった。 ・ 貿易と貧困の問題、難しい課題として簡単に解決できないことがわかった。 ・ グループ討議が主体だったので、参加した実感が高められたと思う。 ・ 参加することにより理解が深まる。あたりまえのことだが、真実であり、できるだけたくさんの人に参加して欲しいと思う。 ・ 同様な研修を昨年(ユネスコ協会)も受けたが、何度聞いてもよい課題である。
<p>成果と課題</p>	<p>日常まったく意識していないが、そこには不公平な貿易があり、生産者の貧困という問題があるということを参加者全員が認識でき、意識関心が高まったことが成果としてあげられる。</p> <p>課題として、場所の関係もあり(交通の便等)、参加登録者の参加が少なかった。チラシに地図は載せていたが、バス・電車での行き方等の説明を記載する必要がある。</p>
<p>その他</p>	